



No.7

2007.4.3

掲載している職名及び学生の学年は平成18年度のものであります。

CONTENTS

国際交流のタベ	1
交換留学体験記	2
国際交流協定校一覧	2
平成18年度国際交流の歩み	3
地域との交流	3
国際交流ふれあいフェスタ	3
留学生の四季	4
寄稿「九産大で学んで」	4
お国自慢料理入門	4

発行/
九州産業大学国際交流センター
〒813-8503
福岡市東区松香台 2-3-1
TEL (092)673-5588
FAX (092)673-5611



国際交流のタベ 留学生と国際交流ボランティア愛好会による異文化交流の試み

平成18年12月19日、九州産業大学に在学する留学生と日本の学生との相互理解を深める第一歩として、「国際交流のタベ」と題した交流会が開かれました。

初めに持田国際交流センター所長から開会の挨拶があり、フランス留学経験を元に、「異文化交流がいかに有意義であるか」ということが述べられました。

この催しを企画したのは、タパ・クリシュナ君と篠原崇宏君との2人の国際タッグ。そして2人をサポートする韓国・スリランカ・中国・ネパール・マレーシア・ロシア・日本の学生諸君の協力により実現したものです。



会を企画したタパ君と篠原君

国際交流ボランティア愛好会 篠原 崇宏 さん（商学部第一部商学科 3年）のメッセージ

私は大学で国際交流ボランティア愛好会に入り、主に、本学に在学している韓国からの留学生やアメリカの大学生と交流を行ってきました。

それまで、他の国の学生とコミュニケーションをとることがなく、自分の偏見だけで物事を判断していた所がありましたが、この愛好会での活動を通して、多くの留学生たちと出会うことができ、相手の気持ちを考えていなかったことに気が付きました。そして、もっと多くの人と話をして自分の考え方を見つめ直し、また外国語のコミュニケーション力を高めようと思いました。

そこで、私自身も含め、普段あまり交流がない日本人学生と留学生、また、留学生同士の交流の場を作ろうと計画しました。

留学生に母国と日本における食文化、住環境、物の見方や考え方などの違いを発表してもらうことで、特に日本人学生に普段当たり前と感じている日本の習慣をもう一度見つめ直してもらい、そのことで国際的視野の広がりを持ってもらうことを目的として、今回の「国際交流のタベ」を企画しました。

国際交流のタベ

実施日 / 2006年12月19日(火)

時間 / 18:00～

場所 / 1号館7階大会議室

■当日の流れ

18:00～開会の挨拶

国際交流センター 所長 持田明子 教授

18:10～発表開始

19:40～発表者への質問タイム

20:00～懇親会及び意見交換タイム

20:40～閉会の挨拶

商学部 第一部 千相哲 助教授

■発表者

<韓国>金鎮錫(キム ジンソク)

商学部第一部 観光産業学科 3年

<スリランカ>ギーツ・ランワラ

経営学部 国際経営学科 2年

<中国>任真(ニンジェン)

芸術研究科 写真専攻 1年

<ネパール>ティワリ・シュリナート

経営学部 産業経営学科 3年

<マレーシア>吳書璣(ゴシュリ)

芸術学部 写真学科 2年

<ロシア>マリナ・ゴロヴェンコ

国際文化学部 国際文化学科 2年

<日本>牧野 安珠

経営学部 国際経営学科 4年

<日本>山口 翔太郎

経済学部 経済学科 4年

留学生会 タパ・クリシュナさん（商学部第一部観光産業学科 3年）のメッセージ

近年、国際社会はますますグローバル化し、それに伴い、様々な摩擦や軋轢が起こっていますが、これを乗り越えることが、我々の世代に課せられた大きな課題だと思われれます。

その課題の克服として、留学生に何が出来るかを考えたところ、本学では、他大学に先駆け国際社会に対応する人材を送り出すために、様々な取り組みがなされていることに気が付きました。

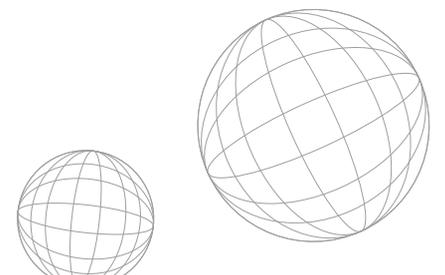
その中でも海外6カ国への学生派遣と共に、13カ国から留学生の受入れを行っている点に着目してみました。このことは、同一キャンパスにいながらにして、多国籍の学生と触れ合う機会が多く、国際感覚を養うのに適した環境であるということが言えます。

しかし、実情は日本人学生と留学生の交流は個人的な交流を除いて、いささか少ないように感じられます。そこで、今回は一味違う交流行事として、「国際交流のタベ」を開催してみようと考えました。

国際交流ボランティア愛好会のメンバーと留学生が、行事の内容をどうするか試行錯誤しながら企画したことは、留学生が日本で体験した言葉の壁、カルチャーショック等を披露してもらい、それに加えて母国の文化について紹介してもらうことでした。一方、日本人学生には派遣留学先での体験を語ってもらうことにしました。互いの視点から相手の世界を語り、発表者の声とおして、お互いをもっと深く知り合おうという狙いがありました。

「国際交流のタベ」を開催してみて感じたことは、国際交流という言葉は、日頃よく耳にする言葉ですが、非常に奥が深いということです。ただ単に、他国の人と話し合うことでだけで理解しあえたとは言えないし、相手の国の文化的背景だけを知っても人間的なつきあいが出来たとは言えないということが、おぼろげながら理解できました。

この行事を通して、相手の目線から自分を見つめ直す試みが少しばかり達成できたと思います。今後、この「国際交流のタベ」の開催をきっかけに、国際親善や国際交流の輪が広がれば幸いです。



交換留学体験記

九州産業大学の交換留学制度は、学生を海外の交換留学協定校に、大学の代表として6ヵ月間派遣し、留学生活を通してグローバルな視野と知識を持った人材を育成することを目的に設けられているものです。平成18年度はアメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、中国、韓国の6カ国8大学に17人を派遣し、皆、それぞれに貴重な体験と大きな成果を手土産に元気に帰国しました。このコーナーではイギリスに留学した木村さんと、フランスに留学した畑さんに、留学生活を通して感じた思いを、帰国直後の感動冷めやらぬままに、語っていただきました。

木村ゆいさん

国際文化学部 臨床心理学科 2年生

派遣先：リーズ・メトロポリタン大学(イギリス)

期間：平成18年8月～平成19年1月

「百聞は一見に如かず」

百聞は一見に如かず。私が半年間の留学生活を通して身にしみて感じたことです。私はイギリスに留学していた半年の間に、様々なものを見、様々なことを体験し、様々なことを感じてきました。それは日本には見ることの出来なかったもの、たとえ見ることが出来ても実際に体験しないと感ずることの出来なかったものばかりです。

今私達の身の回りには様々な情報が溢れています。もちろん、最低限の情報は知っておくべきものですし、役に立ちます。しかし、過剰な情報は時に可能性を狭めます。自分で行動し、自分の目で見て、自分で判断する。それが間違っていると、正しいなどと言うことは問題ではないのです。自分の意見を持つことが大切なことです。周りの情報に振り回され、先入観や偏見で自分の可能性を狭めてしまうのは、大変もったいない事だと私は思います。

また、半年の間に私は人生最大の財産を得ました。それは現地で出会った友人たちです。国境や文化を越え、苦楽を共にした友人たちです。様々なことを考えさせてくれた友人たちです。今この時期にそんな素晴らしい人たちに出会えて大変幸せに思います。そしてこんな機会に恵まれたことに大変感謝しています。

前から興味があった方はもちろんですが、興味はなかったけれど今この文章を読んで頂き、少しでも自分の中に興味が芽生えた方がいらっしやっただのなら、是非、交換留学に挑戦してみてください。私が送ったこの素晴らしい半年を、皆さんにも是非体験して頂きたいのです。そして自分の目で見て、感じてきてください。留学を終えた半年後、新しい自分に出会えるはずですよ。

そして最後にもうひとつ。“行きたいけれど、自分は英語が・・・”と思っている方。それほどもったいない理由はない、と私は思います。



各国からの留学生と共に！(筆者：前列中央)

畑大志さん

国際文化学部 国際文化学科 4年生

派遣先：リール・カトリック大学(フランス)

期間：平成18年8月～平成19年1月

「新たな自分との出会い」

私は九州産業大学でフランス語や文化を学ぶうちに、留学して自分の目で異文化を見たいと思うようになりました。そして交換留学制度に挑戦することを決めました。その後、選考試験に合格することができ、大きな期待を胸にフランスへ向かいました。

出発前は留学生活に対して楽しいイメージしかなく、フランスでの生活にもすぐに慣れるだろうと思っていました。しかし、実際にフランスで生活してみると日本で抱いていた留学生活のイメージとは大きな違いがあり戸惑いました。つまり楽しいことばかりではないということです。留学生活では観光では気付かなかった嫌な部分が見えてきたり、言葉の問題から何事もなかなか自分の思うようにいかなかったりすることもありました。そのため、今まで自分が抱いていた留学やフランスのイメージはずいぶん勝手なものであり、もっとしっかりと現実を見ないといけないと痛感しました。

また、日本で自分がいかに裕福な生活をしてきたか、何不自由なく与えられて生きていたかということもよく分かりました。フランスでは貧しい人も多く、仕事も、国籍さえもない人達があります。そのような状況にいる人達を考えれば、私はなんて裕福な人間なのだろうと思いました。今までは日本での自分の生活が当たり前だと思っていたため、その有り難さに気付いていませんでした。そして、もっと感謝して生きて行かなければならないと思いました。

今回の留学生活では本当に多くの発見をすることができました。世界各国から集まる学生の話の聞いたり、見たこともない料理を食べたりと、異文化の中での生活は刺激溢れるものでとても充実していました。今まで持っていた価値観や考え方は崩れ、新たに視野を広げることができました。この変化が私にとって留学生活における最大の出来事であり、最大の収穫です。今回の留学で学んだことを今後の人生に役立ててこそ、留学の本当の意味があると思います。そして、そうして行くことが私のこれからの目標です。



大学寮での歓迎パーティーにて！
(筆者：左から3人目)

九州産業大学国際交流協定校一覧

交流形態	大学名	国名/都市名	平成18年度の交流実績等
大学間交流	アビリン・クリスチャン大学	アメリカ/テキサス州アビリン市	☆交換留学協定校(2人派遣)
	リバプール・ジョン・モーズ大学	イギリス/リバプール市	☆交換留学協定校(4人派遣)
	リーズ・メトロポリタン大学	イギリス/リーズ市	☆交換留学協定校(2人派遣)
	リール・カトリック大学	フランス/リール市	☆交換留学協定校(2人派遣/1人受入れ)
	リール科学技術大学	フランス/リール市	☆交換留学協定校
	シュトゥットガルト造形美術大学	ドイツ/シュトゥットガルト市	☆交換留学協定校(1人派遣/1人受入れ)
	中国人民大学	中国/北京市	☆交換留学協定校(2人派遣/1人受入れ)
	東亜大学校	韓国/釜山市	☆交換留学協定校(2人派遣/2人受入れ)
	東国大学校	韓国/ソウル市	☆交換留学協定校(2人派遣/1人受入れ)
天津大学	中国/天津市	教員間交流実施(派遣/受入れ)	
スポーツ交流	中央大学校	韓国/ソウル市	平成18年8月バスケットボール部(派遣)
学部間交流 (商学部との交流)	忠南大学校経商大学	韓国/大田市	学生親善訪問団(派遣/受入れ)
学部間交流 (芸術学部との交流)	蔚山大学校デザイン大学	韓国/蔚山市	学生親善訪問団(派遣/受入れ)
	東西大学校デジタルデザイン学部	韓国/釜山市	学生親善訪問団(派遣/受入れ)
	上海工程技術大学芸術設計学部	中国/上海市	教員間交流実施(派遣)
学部間交流 (国際文化学部との交流)	中国人民大学外国語学部	中国/北京市	
学部間交流 (芸術学部との交流)	ボルドー市(ボルドー美術学校)	フランス/ボルドー市	学生1人受入れ(隔年実施)※ボルドー市との文化交流協定

平成18年度 国際交流の歩み

◎受入れ

平成18年6月3日(土)～7月3日(月)

カリフォルニア州立大学フラートン校、サイプレス大学(アメリカ)からの学生・教員受入れ
 目的: 異文化交流(福岡市協賛事業)
 受入れ: 学生20人・教員2人



受入れ教員:
 高橋 真理枝 教授
 ホンチ 教授

平成18年6月29日(木)～7月3日(月)

忠南大学校経商大学(韓国)からの学生・教員受入れ
 目的: 学生・教員交流
 受入れ: 学生28人・教員4人



受入れ教員:
 文 熙哲 教授
 李 紀勳 教授
 朴 卿惠 助教授
 崔 穂美 講師

平成18年7月19日(水)～7月22日(土)

東西大学校デジタルデザイン学部(韓国)からの学生・教員受入れ
 目的: 学生・教員交流
 受入れ: 学生40人・教員2人



受入れ教員:
 李 明姫 教授
 金 東賢 教授

平成18年7月19日(水)～7月27日(木)



蔚山大学校デザイン大学(韓国)からの学生・教員受入れ
 目的: 学生・教職員交流および集中講義受講
 受入れ: 学生40人・教員3人
 受入れ教員: 全 聖福 教授
 金 建佑 教授
 金 星美 助教

本年度もアメリカ、中国および韓国の大学から学生及び教員を受入れ、本学からも芸術学部・商学部及びバスケットボール部の学生を派遣しました。各協定校との友好親善の絆はますます深まったようです。なお、本年度の主な国際交流の歩みは、以下のとおりです。

平成19年3月22日(木)～3月27日(火)

天津大学(中国)からの教員受入れ
 目的: 学術交流
 受入れ教員: 王 剛 教授
 王 小荣 副教授



派遣教員:
 酒井忠臣 教授
 三枝孝司 講師

◎派遣

平成18年8月14日(月)～8月18日(金)

中央大学校(韓国)へのバスケットボール部派遣
 目的: スポーツ交流
 派遣: 学生22人
 派遣教職員:

小河修次 学生部長(芸術学部教授)
 元 炳善 監督(国際交流センター職員)
 佐野公俊 コーチ
 高田正明 学生部厚生課長補佐

平成18年11月1日(水)～11月5日(日)

天津大学(中国)への教員派遣
 目的: 学術交流
 派遣: 工学部教員2人
 派遣教員: 鶴田和寛 助教授
 諫見泰彦 講師

平成19年2月7日(水)～2月10日(土)

忠南大学校経商大学(韓国)への学生・教員派遣
 目的: 学生交流
 派遣: 学生24人・商学部第一部教員2人
 派遣教員: 原 康記 助教授
 千 相哲 助教授

平成18年9月4日(月)～9月9日(土)

蔚山大学校デザイン学部・東西大学校デジタルデザイン学部(韓国)への学生・教員派遣
 目的: 学生・教員交流
 派遣: 学生22人・芸術学部教員2人

平成18年度 交換留学生

◎派遣

リバプール・ジョン・モーズ大学 (イギリス・リバプール市)

派遣期間: 平成18年8月～平成19年1月
 楠田 明奈(国際文化学部 国際文化学科4年)
 (光陵高校出身)
 淵上 舞子(商学部 第一部 観光産業学科3年)
 (光陵高校出身)
 間内 賢(商学部 第一部 観光産業学科3年)
 (八幡中央高校出身)
 西山 枝里(経営学部 国際経営学科3年)
 (糸島高校出身)

リーズ・メトロポリタン大学 (イギリス・リーズ市)

派遣期間: 平成18年8月～平成19年1月
 木村 ゆい(国際文化学部 臨床心理学科2年)
 (九州国際大学付属高校出身)
 鶴崎 泰代(経済学部 経済学科4年)
 (光陵高校出身)

アビリン・クリスチャン大学 (アメリカ・テキサス州アビリン市)

派遣期間: 平成18年8月～平成19年1月

富永 直美(国際文化学部 国際文化学科4年)
 (九州女子高校出身)
 井浦真由美(国際文化学部 国際文化学科3年)
 (玄界高校出身)

リール・カトリック大学(フランス・リール市)

派遣期間: 平成18年8月～平成19年1月
 畑 大志(国際文化学部 国際文化学科4年)
 (八日市高校出身)
 三浦 綾美(国際文化学部 国際文化学科3年)
 (筑前高校出身)

中国人民大学(中国・北京市)

派遣期間: 平成18年8月～平成19年1月
 徳貞 陽(国際文化学部 国際文化学科4年)
 (福岡工業大学附属城東高校出身)
 坪根 智士(経営学部 国際経営学科3年)
 (北九州高校出身)

東亜大学校(韓国・釜山市)

派遣期間: 平成18年8月～平成19年1月
 吉岡 周作(経済学部 経済学科3年)
 (小城高校出身)
 中村 想太(商学部 第一部 観光産業学科3年)
 (三池高校出身)

東国大学校(韓国・ソウル市)

派遣期間: 平成18年8月～平成19年1月
 甲斐 亮介(国際文化学部 地域文化学科4年)
 (延岡高校出身)
 後藤 清夏(商学部 第二部 商学科4年)
 (酒田商業高校出身)

シュトゥットガルト造形美術大学

(ドイツ・シュトゥットガルト市)
 派遣期間: 平成18年10月～平成19年1月
 片井 彩霞(芸術学部 美術学科2年)
 (太宰府高校出身)

◎受入れ

リール・カトリック大学(フランス・リール市)

氏名/シドニー・ハッチョン
 受入れ期間/平成18年9月～平成19年8月
 受入れ学部/国際文化学部

中国人民大学(中国・北京市)

氏名/朱佳静
 受入れ期間/平成18年9月～平成19年8月
 受入れ学部/国際文化学部

東亜大学校(韓国・釜山市)

氏名/朱芝泳
 受入れ期間/平成18年4月～平成18年8月
 受入れ学部/国際文化学部

氏名/庚 垠雅

受入れ期間/平成18年9月～平成19年2月
 受入れ学部/芸術学部

東国大学校(韓国・慶州市)

氏名/沈 重萬
 受入れ期間/平成18年4月～平成19年2月
 受入れ学部/国際文化学部

シュトゥットガルト造形美術大学 (ドイツ・シュトゥットガルト市)

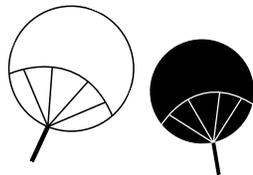
氏名/ヴェレナ・フランク
 受入れ期間/平成18年4月～平成18年8月
 受入れ学部/芸術学部

ボルドー市との文化交流協定に基づく受入れ ボルドー美術学校(フランス・ボルドー市)

氏名/ロレン・ユレット
 受入れ期間/平成18年9月～平成18年12月
 受入れ学部/芸術学部

地域との交流 (2006年度)

本学の留学生は、在学中に日本文化や慣習を学ぶため、学内外でさまざまな交流活動に参加しています。地域との交流もその1つで、近隣の小学校をはじめとする地域からの要請に応える形で、母国の文化や言葉の紹介等をおとして交流を深め、日本留学を更に意義あるものにしていきます。



◎香椎校区夏まつり…… 期 日: 平成18年8月20日(日)
 内 容: 模擬店出店(餃子・チヂミ)
 参加者: 中国3人・ネパール1人

◎香椎小学校…………… 期 日: 平成18年12月1日(金)
 内 容: 「世界の人々と手をつなごう」
 参加者: 中国3人・韓国2人・ブラジル1人

◎香住丘小学校…………… 期 日: 平成19年1月19日(金)
 内 容: 「韓国・朝鮮の文化や生活習慣について」
 参加者: 韓国1人

国際交流ふれあいフェスタ2006

国際交流センターでは、留学生と日本人学生、地域住民及び教職員の交流を深めるため、「国際交流ふれあいフェスタ」を開催しています。2006年は3回の行事を実施し、延べ約250人の参加がありました。



第1回「中国伝統音楽の夕べ」～「胡弓」の調べ～
 開催日: 平成18年7月14日(金)
 開催時間: 18:00～19:30
 会場: 8号館1階メモリアルホール
 出演者: 楊芸(胡弓)、程鳳春(歌・舞踊)
 楊品(琵琶・楊琴・柳琴)、植原健司(キーボード)



第2回「お国自慢料理入門」
 開催日: 平成18年10月23日(月)
 開催時間: 18:00～19:00
 会場: 国際交流センター懇話室
 参加国・メニュー: (中国)水餃子、(韓国)海鮮チヂミ、(ネパール)チキンカレー、(ブラジル)パステル・デ・カルネ、パステル・デ・ケイジョ、(日本)もつ鍋



第3回「津軽三味線の夕べ」
 開催日: 平成18年12月14日(木)
 開催時間: 18:00～19:00
 会場: 8号館1階メモリアルホール
 出演者: 鹿野永勝さんとその社中

留学生の四季

遠く母国を離れ、本学に学ぶ留学生は、心に描いた目標に向かって生活しています。国際交流センターでは、留学生会の協力で、四季それぞれの交流行事を開催しています。これらの交流行事には、日本人学生が参加できる行事もあり、国境を越えた友情が育まれています。

4月 入学式
H18.4.3(月)



新入留学生オリエンテーション
H18.4.7(金)



5月 留学生在留生活指導会
H18.5.16(火)



新入留学生歓迎バスハイク
H18.5.28(日)



11月 交通安全指導会
H18.11.1(水)



香椎祭(模擬店)
H18.11.3(金)～5(日)



留学生ホームビジット
H18.11～H19.2



3月 外国人留学生送別会
H19.3.19(月)



学位授与式
H19.3.20(火)

臨床心理学科で学んで 高莉娟さん

国際文化学部臨床心理学科3年
[中国(南京)出身]



みなさんこんにちは。国際文化学部臨床心理学科4年生の高莉娟と申します。九州産業大学での留学生生活は今年で4年目となりますが、日本に来た時のことは、今でも昨日のことのようにはっきりと思い出せます。

私は、地元の観光ビジネス専門学校を卒業後、中国のホテルに就職しました。

ホテルでは和風レストランに配属されました。いろんな日本人のお客さんと触れ合う機会があることから日本語の勉強を始め、次第に日本文化や日本事情に興味を持ち、日本への留学を考えるようになりました。そして、2003年の春、ホテルを辞めて来日しました。

ホテルで働いていた頃、私はお客様に最高のサービスを提供し、喜ばせることを追求していました。しかし、人間の心理はとても複雑で、人によって考え方、感じ方が全く違うと感じるようになり、心理学に興味を持つようになりました。中国では、まだ日本ほど心理学を勉強できる学校が多くなく、来日後、九州産業大学に臨床心理学科が新設されることを知り、是非この機会に勉強したいと思い、入学することにしました。

実際に入学して、最初の頃は臨床心理学科での勉強がとても大変に感じました。専門用語の多くが、英単語を片仮名で表記しているため、外国人には特にわかりづらいのです。

大学では、英語と日本語の電子辞書をひきながら一生懸命授業を受け、分からないところは先生に聞くようにしてきました。そうしているうちに勉強の仕方に慣れ、幸いなことに今では成績も良好です。毎日楽しく充実した生活を送っており、入学してよかったと思います。

私は、臨床心理学科でこれまで勉強してきた、多くの収穫が得られたと思います。

まず、様々な心理学理論を学ぶことができました。特にメンタルヘルスについては、ストレス解消、総合失調症の防止、自律訓練など、自分自身にも役立つことが多いと思います。

それに、臨床心理学が活かせる現場は幅広く、スクールカウンセラー、心療内科、社会福祉事務所、家庭児童相談所、職場のメンタルヘルス、家庭内など、様々な分野に係わりがあります。現在、技術の進歩や産業構造の変化などを背景に、職場でのストレスは高まっており、労働者の心の健康に悪影響を及ぼしています。心の健康の問題は、精神病、不安障害、心身症、行動偏倚などにまで発展する恐れがあり、職場におけるメンタルヘルスクエアはとても重要になってきます。

私は産業心理学に関する分野、具体的には人事労務管理スタッフとして企業で働くことを希望しています。そして、職場での教育研修、悩み相談、メンタルヘルス不全となった労働者の職場復帰支援等に携わり、職場の労働環境の改善に貢献したいと考えています。

臨床心理学科での勉強は、その目的のためにとっても役立つものと思います。

来日後長い年月が経過し、私は日本がとても好きになりました。しかし、たまにホームシックになるときがあります。そんな時には、故郷である南京の町を歩き、南京で一番美味しい料理である南京ダックを食べたくありません。

日本でも、私の故郷の名前が浸透しているようですが、南京の人間としては、日本で、かぼちゃや落花生に南京(豆)という呼び名を付けていることが不思議に感じます。

南京は、すごく静かで綺麗な町です。長江に臨み、古来、政治、軍事の要地と言われています。

歴史のある町で、有名な政治家の孫文先生や、多くの人々に好かれている三国志の中に出てくる孫権の墓があり、有名な観光地として開放されています。

また、夜、町を歩けば、あちこちで美味しい屋台を見ることもできます。

皆さん、チャンスがあれば是非一度私の故郷に遊びに来てください。

シリーズ「お国自慢料理入門」～ブラジル編～

今回の「お国自慢料理入門」は、ブラジルの「パステル・デ・カルネ」「パステル・デ・ケイジョ」(ブラジル風揚げ餃子)を紹介します。

ブラジル出身の留学生が、母国の家庭料理を再現したレシピです。ご家庭で、ぜひお試しください。

「パステル・デ・カルネ」※約50個分

○材料

牛ひき肉(500g)、玉ねぎ(1個)、トマト(1個)、にんにく(2片)、餃子の皮(50枚)、サラダ油、塩、こしょう

○作り方

1. 玉ねぎ、トマト、にんにくをみじん切りにする。
2. フライパンに油をひき、にんにくと玉ねぎをきつね色になるまで炒める。
3. 2にトマト、ひき肉を入れて炒め、塩こしょうで味付けし、冷ます。
4. 3を餃子の皮で包み、揚げ餃子の要領で油で揚げる。

「パステル・デ・ケイジョ」※約50個分

○材料

溶けるタイプのチーズ(500g)、玉ねぎ(1個)、トマト(1個)、餃子の皮(50枚) サラダ油、塩

○作り方

1. みじん切りにした玉ねぎ、トマト、チーズを混ぜ、塩で味付けする。
2. 1を餃子の皮で包み、揚げ餃子の要領で油で揚げる。

※本来、パステルの生地は小麦粉・卵等から作りますが、日系ブラジル人は「餃子の皮」で代用することがよくあるとのこと。

